

研究主題等 「地理総合」指導と評価の一体化

～教材作成と評価規準の共有～

I 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校で地理を担当する教員の団体として、年3回の授業研究（うち1回は中学校の授業を見学）と年2回の巡検、GIS研修会等を中心に、授業力の向上や教材の共有化を目指して活動をしている。

全国地理教育研究会とも連携し、全国大会の企画・運営等の事務部門も担当している。令和4年度は全国大会を東京主催で8月に開催した。1日目はオンラインでの開催としたが、2日目にはJICA地球ひろばの協力を得て、SDGsに関するワークショップを実施し、3年ぶりに対面での大会となった。

令和3年度よりTeams上に都地研チームを作成した。授業で使える統計資料や各種ファイル、都地研GISスタンダード（地理情報システムの教材化）を共有するなど、会員間での情報交換や教材、資料の共有化を進めている。

II 研究の目的

今年度より履修が開始された新科目「地理総合」に関して、「知識理解」から「知識活用、課題・解決型」の学習への授業構築に向けて、地図とGISの活用、国際理解と国際協力、防災と持続可能な社会の構築という大項目を柱にした指導の実践と共有、評価の方法の構築を図る。

III 研究の方法

(1) 授業研究の活用

3回の授業研究での授業実践を基に、地理総合の教材、教授内容の確認と評価の方法を検討する。

(2) 連携研修の活用

東京都教職員研修センター「教科等教育課題研修」の連携研修を実施し、受講者の反応を考察する。

(3) 講演・巡検の活用

新しい題材の教材化を図る。

Ⅳ 研究の内容

- (1) 3回の授業研究では、個人端末の活用、生徒による発表と相互評価、少人数でのワークなど三様の授業実践が行われた。生徒の活動記録や回収など Teams の実践的な活用が検討会でも取り上げられた。
- (2) 一人1台端末の活用をテーマに指導教諭が講師となって9月に連携研修を行った。歴史など他科目専攻の教員の参加も多かったが、歴史的内容でのGISの活用なども紹介し、参加者から高い評価を受けた。
- (3) 地理院地図を教材として活用するために、国土地理院に講師を派遣していただいて講習会を行った。防災教育の教材作成を目的に、関東大震災を主題に東京都慰霊堂、神田周辺の震災遺構巡りを実施した。



巡検で訪れた東京都慰霊堂の講堂(上)と公園内に展示されていた関東大震災の遺物(右)

Ⅴ 研究の成果と課題

地理総合は、生徒の活動を主体とする科目だと再認識する機会となった。問いを基に生徒が必要となる情報を収集し、多面的多角的に分析してアウトプットまでさせる教材を準備し、教員が頑張っているのではなく、生徒自らが頑張った内容と姿勢を評価することが理想となろう。その中で一人1台端末の活用や評価への適用などで有効な導入の研究を続けたい。しかし、学習指導要領の主旨と教科書の乖離、授業現場での旧科目との違いの認識、大学入試問題への対応など、新しい授業展開を構築するために検討すべき点は多い。

<連絡先>

団体名		東京都地理教育研究会
代表者	所属	東京都立王子総合高等学校
	職 氏名	校長 榎野 治和
	連絡先	03-3576-0602
事務局	所属	東京都立青山高等学校
	職 氏名	主任教諭 白川 和彦
	連絡先	03-3404-7801